

# 高校生に将来のヒント

四国中央・川之江高  
卒業生 仕事のやりがい語る

高校生に進路を考える一助にしてもらおうと、四国中央市川之江町の川之江高校で「川之江先輩塾」が開かれ、川之江高出身の社会人が現役の生徒に、今の仕事を選んだ理由、やりがいなどについて熱く語った。

1年生180人が聴講したフォーラムに、地元の企業経営者や薬剤師ら卒業生5人が登壇した。市内の紙加工会社「江南フミネート」の代表取締役石川克晴さんは、都会での経験を踏まえながら地元の魅力を語った。

自分のアイデアを製品化して世の中の役に立ちたいと大学卒業後、メーカーに就職。東京での日々は充実していたが、他社との競争の中で次第に「自分さえよければいい」という人間になったと感じ



卒業生が仕事のやりがいなどを披露した川之江先輩塾のフォーラム

た」と振り返った。

結婚を機に帰郷し、地元の紙関連産業の充実ぶりを実感したといい、都会と違い会社同士が協力し合う風土を「まち全体が『四国中央市紙産業株式会社』のよう」と形容した。

世界に誇る紙のまちとして認知度向上が課題とし「もっとすごいものを作れる。皆さんが発信する側になってほしい」と呼び掛けた。先輩塾は川之江出身の大学研究者らが2016年から始めた取り組み。今年は6月23

日に開いた。

将来の夢は決まっていないという友安真祐さん(16)は「目の前のことに精いっぱい取り組むことの大切さを感じた。周りのために何ができるか意識して進路を考えたい」と話した。

2年生を対象にビデオ会議システムを使ったオンライン出前授業もあった。愛媛大ミュージアムの吉田広准教授ら3人の研究者が考古学など各分野に絡めた地域の探究や学びのヒントを伝えた。

(菅亮輔)